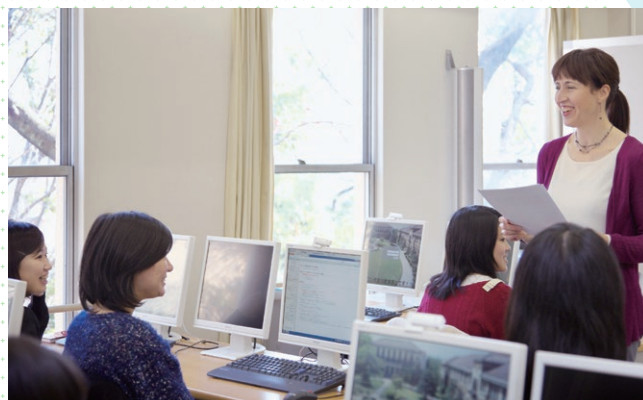




通訳・翻訳プログラムとは？

プロの通訳者・翻訳者を育てるための本格的トレーニング法を応用した独自のエクササイズを通して、日本語でも英語でも実社会において効果的にコミュニケーションできる力を伸ばすプログラムで、次の2つの特徴があります。

- 1. 本物志向** 架空の教材は使用せず、実際に行われたスピーチや原稿といった本物の素材を教材として使用し、現場で豊かな実務経験を積んだプロの通訳者や翻訳者が教えます。
- 2. 世界標準** 英日方向は日本語を母語とする教員が、日英方向は英語を母語とする教員が教える、という世界標準をクリアした教員陣があなたの挑戦を支えます。

期間は2年次からの3年間で、選考に合格(めやすは1年次終了時点でTOEIC 600点程度取得済み)すれば、どの学部や学科の学生でも履修することができ、職場・地域社会・家庭など、社会のどんな場でも高いコミュニケーション力を発揮する「ことばのデザイナー」を目指することができます。

私たちが、ことばのデザイナーへの
水先案内人です。



中村昌弘 准教授
(通訳担当)

分析力・論理力・表現力・説得力などが必要とされる通訳という営為を一種の情報デザインと捉え、情報を効率よく効果的に受け取り伝える技術としての通訳を実践します。



奥村キャサリン 准教授
(通訳担当)

コミュニケーションはことばを駆使する能力に加え、相手の意図を読み取ることも必要です。相手の発言に秘められているその意図を把握するための聴解力や分析力を身につけます。



スーザン・ジョーンズ 専任講師
(翻訳担当)

直訳ではない翻訳。背景や専門的概念を調べたり、内容を分析したりして、深く理解することが必要です。結果としてリサーチ力、読解力や批判的思考力が高まります。

卒業後は、高いコミュニケーション力で、
各企業での活躍やプロデビューの道も。

通訳・翻訳プログラムの修了生は、高いコミュニケーション力を就活や日常業務に活かして航空・ホスピタリティ・金融・製造業など各業界で活躍しています。

また、本学大学院文学研究科・通訳翻訳コースに進学し、優秀な成績を修めプロになった人はもとより、在学中にプロデビューを果たす学生もでてきています。

将来は英語も日本語と同じように自由に操りグローバルな仕事で活躍したいという人も、通訳や翻訳のプロを目指すという人も、本プログラムを履修し「ことばのデザイナー」を目指してみませんか？



Interpreting and Translation

全学部全学科の学生に開かれた特色プログラム
通訳・翻訳プログラム

Kobe College Department of English

神戸女学院大学



神戸女学院大学

〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山 4-1
tel. 0798-51-8548 fax. 0798-51-8532

ことばの デザイナーになる

全学部全学科の学生に開かれた特色プログラム 通訳・翻訳プログラム



相手に誤解されないように伝えるべきことをことばで伝えるための技を身につけた人を、私たちは「ことばのデザイナー」と捉えています。例を使って具体的に見てみましょう。

あなたは自分が勤める会社の新製品について、アメリカの取引先からやって来たお客さんに対してプレゼンをしていて、その製品の「色はシルバー、ブラック、ホワイトです。」と伝えたいとします。このとき英語で何と言いますか？

- (A) “Colours are silver, black and white.”
(B) “It comes in three different colours: silver, black, and white.”

ここで(A)の表現をする人は、ただの「直訳者」です。一見正しく訳せているようでも、これでは「シルバーと白黒」の2種類なのか「シルバーと黒と白」の3種類なのかははっきりしません。このようなあいまいさを避けて(B)のような明確な表現ができる人こそが、ことばのデザイナーです。

ことばのデザイナーには幅広い知識と教養に加えて、日本語も英語も自由に操るための高度な言語運用力、それを駆使して相手を説得する交渉力、他人が発したメッセージをしっかり受け取るための傾聴力・分析的思考力・理解力、自分が伝えたいことを相手に誤解されないように伝える論理力・表現力・対話力などが不可欠ですので、通訳・翻訳プログラムではこれら全ての力を本格的なエクササイズを通して総合的に鍛えます。

履修の流れ



2 年次
Sophomore
Year

踏み出そう！ことばのデザイン入門

―― 初歩的な逐次通訳・翻訳ができるようになります。

- ・Interpreting:
Theory and Technique(I)
〈通訳 理論と技術(I)〉
- ・Translation:
Theory and Technique(I)
〈翻訳 理論と技術(I)〉

土台作りのエクササイズを行います。例えば、誰もが知る物語をもとに、その続編をグループに分かれて創作し、劇やデジタル紙芝居にして互いに演じたり通訳したりして表現力やスピーキング力を高めます。また、ストーリーを聞いて、あとから記憶を頼りに出来事を順番通りに再現したり全体を要約したりして、傾聴力・記憶力・分析力・理解力を高めます。他にも、機械などの取扱説明書を翻訳しながら、読み手に理解しやすい表現や専門用語などを身につけます。



3 年次
Junior Year

さあ、修行だ！ことばのデザイン基礎

―― 基本的な逐次通訳・翻訳ができるようになります。

- ・Interpreting:
Theory and Technique(II)
〈通訳理論と技術(II)〉
- ・Translation:
Theory and Technique(II)
〈翻訳理論と技術(II)〉
- ・Business Interpreting
〈ビジネス通訳〉

他者が発したメッセージを正確に理解し、その内容を第三者に日本語でも英語でもわかりやすく伝える力を鍛えます。国際社会・地球環境・女性を取り巻く問題などに関するスピーチを通訳する訓練を行ったのち、同じテーマについて今度は各自が意見や問題解決策を主張するスピーチを行い、それをクラスメイトが通訳する複合的な訓練を行い、社会の中で実際に役立つコミュニケーション力を伸ばします。また翻訳では「英→日」以上に需要の高い「日→英」の基礎を学びます。



4 年次
Senior Year

まだまだこれから！ことばのデザイン応用

―― ある程度専門的な内容の逐次通訳とウィスパリング通訳(同時通訳の一種)ができるようになります。

- ・Interpreting:
Theory and Technique(III)
〈通訳理論と技術(III)〉
- ・Translation:
Theory and Technique(III)
〈翻訳理論と技術(III)〉

日本語でも英語でも効果的に説得や交渉を行うためのコミュニケーション力を鍛える訓練を行います。例えば「新商品企画プレゼン(社内通訳あり)」といったロールプレイングです。学生は企画担当者として実際に新商品を考え、企画書や資料を作成し、上司を演じるクラスメイトたちに対してプレゼンします(誰がどの言語を使うかは抽選)。プレゼンや質疑応答は社内通訳者役の学生が通訳します。このような訓練を通して、日本語でも英語でも職場にふさわしい表現を身につけ、ビジネスで通用する対話力を伸ばします。

講堂での遠隔 同時通訳付き講演。

本学には講堂の他にも常設通訳ブースを完備し同時通訳を行うことのできる教室が3つあり、授業の一環として同時通訳の実技訓練を行ったり、海外から招聘した講師が学内外の聴衆に向けて講演する際などには実際に同時通訳サービスを提供したりしています。



通訳ブースで 同時通訳の実習を 行う学生。

テレビ会議と同時通訳のシステムを独自に融合させ、遠隔地に同時通訳を届けることが可能な設備を学内に複数構築しています。例えばイギリス会場に居る講師が行うスピーチに神戸女学院からリアルタイムで同時通訳をつけ、学内だけでなく東京会場の聴衆にもお届けすることができます。

高校生対象の 絵本翻訳コンクール

応募期間7～9月。
問い合わせは
学長室(広報) ☎ 0798-51-8585
koho@mail.kobe-c.ac.jp まで。



大学院通訳翻訳コース 秋入試(9月) 春入試(2月)実施。

説明会は5月、11月。
問い合わせは
文学研究科 ☎ 0798-51-8557
g-office@mail.kobe-c.ac.jp まで。

